

二戸市浄法寺浄化センターが通水開始！！

～ 汚水処理未普及地域が解消しました ～

下水環境課

県が二戸市浄法寺町で整備を進めていた「浄法寺浄化センター」が完成し、5月27日に通水式を行いました。

二戸市浄法寺地区は、これまで浄化槽による個別処理を進めてきましたが、住宅密集地域があり浄化槽設置が困難な世帯が多かったため、下水道による集合処理を望む声が高まっていました。

そこで、二戸市では、国土交通省の「下水道未普及解消クイックプロジェクト」のモデル都市として採択を受け、「低コストによる早期整備」を目標に、平成19年度から下水道の整備を進め、県は、過疎地域自立促進特別措置法に基づく「県代行事業」として、幹線管渠と「浄法寺浄化センター」の工事を実施しました。

「浄法寺浄化センター」は、国内初の「パッケージ型膜分離活性汚泥法(PMBR)」を採用しました。「膜分離活性汚泥法(MBR)は、「透視度が高く、大腸菌類のない清澄な処理水」、「汚泥性状によらず固液分離ができ、維持管理が容易」などの特徴がありますが、今回採用したPMBRでは、設計・仕様を規格化して計測制御設備等を必要最小限とし、建屋も鉄骨構造とすることで、MBRの特徴に加えて、低コスト化も実現しました。併せて、機械・電気設備、土木・建築工事を一括して発注することで、早期供用を実現しました。

浄法寺浄化センターへの導入を契機として、PMBRが汚水処理の未普及地域解消に大きな役割を果たすことを期待しています。

PMBR：Package Membrane Bioreactorの略称

事業概要	
名称	浄法寺浄化センター
所在地	二戸市浄法寺向田地内
工期	平成21年5月～平成22年3月
供用開始	平成22年3月31日
処理方法	膜分離活性汚泥法
処理能力	300m ³ /日
総事業費	2億3,800万円



完成した「浄法寺浄化センター」



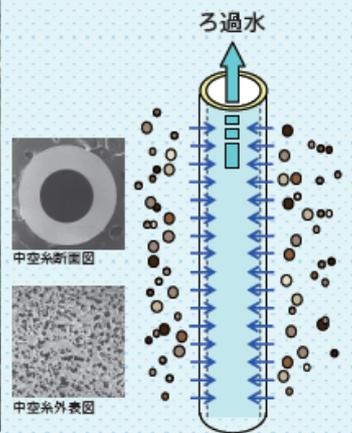
通水式のテープカット

膜分離装置の概要 膜分離装置



中空糸膜モジュール

Membrane separation device



MBRの特徴

- 固液分離を膜で行うため、沈殿槽が不要。
- 活性汚泥濃度(MLSS)を高くでき、活性汚泥槽を小型にできる。
- 透視度が高く、大腸菌類の無い清澄な処理水が得られる。
- 汚泥性状によらず固液分離ができ、維持管理が容易。
- 広範囲な用途に再利用可能である。